

令和7年度 第3回 国立大学法人北海道大学経営協議会議事要旨

日 時 令和8年1月27日（火）10:00～12:20

場 所 WEB 会議

出席者 21名

（学外） 浦田、大槻、菊池、空閑、小坂、小高、サコ、杉江、藤井、三輪、渡辺
各委員

（学内） 寶金、山口、横田、山本、高橋、瀬戸口、行松、甲田、AHMADJIAN、
南須原 各委員

欠席者 1名

（学外） 加納 委員

（オブザーバー）

高橋監事、北村監事

議 事

議事に先立ち、令和7年度第2回経営協議会の議事要旨について確認があった。

【 議 題 】

1 HU VISION 2030 の実現に向けた取組に係る進捗状況報告（案）について

総長から、資料1に基づき、HU VISION 2030 の実現に向けた取組に係る進捗状況について説明があり、報告書の内容について審議した結果了承された。

引き続き総長から、今後、役員会の審議を経たうえで本学ホームページに公表する旨発言があった。

（主な意見）

- ・ビジョンの8項目の中でも「教育」及び「研究」の2項目については、他の6つの項目と比較してもコアであるべきだが、8項目を並列にした場合に、すべての項目が、同等に大学の主目的であると誤解される懸念がある。「教育」及び「研究」以外の6つの観点の実施項目を少なくするなど、見せ方に工夫が可能ではないか。
- ・「教育」に記載されている内容は、北大の重要な課題、取り組みを捉えており

素晴らしいが、教員が一流の教育を提供し続けているかどうかを評価する項目があっても良いのではないか。

- ・「研究」に記載されている内容について、本部主導の内容にも見て取れるので、部局が持つ世界トップレベルになるような研究の芽をどう育てるかという内容についても、付け加えることが必要ではないか。
- ・国立大学が、国内の大学院教育における大きなウエイトを占めており、その大学院教育では研究が軸となってくるため、ビジョンの中でも「研究」の項目が重要であると考える。
- ・ダイバーシティは教育・研究の質を担保するための基盤であり、国際化なども含めて、その基盤を構築していくことが重要である。北大もぜひ社会を牽引する形でダイバーシティを進めていただき、女性研究者がもっと力を発揮できるような取り組みをしていただきたい。
- ・ダイバーシティについて厳しい評価をしており、課題を認識しているという点で重要と考える。ダイバーシティ、多様性、公平性、包摂性が保証されると認識されるためには、実際に起こった事例への対応が重要になるため、ガバナンスとの連動性を意識して、トップのリーダーシップのもと、今後も一層取り組みを進めていただきたい。
- ・ビジョンにおいては、ストレッチな目標を掲げていると思うが、自己評価における C 評価がないことについて、不思議に感じた。

2 中期目標・中期計画（文部科学省提出分）の変更について

総長から、資料 2 に基づき、中期目標・中期計画（文部科学省提出分）の変更について説明があり、変更内容について審議した結果了承された。

引き続き総長から、字句等の軽微な修正については、総長に一任いただきたい旨発言があった。

3 令和 7 年人事院給与勧告の対応について

総長から、資料 3 に基づき、本学における令和 7 年度人事院給与勧告への対応について説明があり、審議した結果了承された。

4 就業規則関連規程の一部改正について

総長から、資料 4 に基づき、議題 3 の「令和 7 年度人事院給与勧告への対応につ

いて」に関連する、就業規則関連規程の改正について説明があり、改正内容について審議した結果了承された。

引き続き総長から、字句等の軽微な修正については、総長に一任いただきたい旨発言があった。

【 報告事項 】

1 令和7年度補正予算について

総長から、資料5に基づき、令和7年度補正予算について、文部科学省から内示伝達があった旨報告があった。

2 令和8年度運営費交付金及び施設整備費補助金予定額について

総長から、資料6及び7に基づき、令和8年度概算要求（財務省要求）について文部科学省から伝達があった旨報告があった。

3 職員宿舎跡地の活用計画及び文部科学大臣への認可申請について

総長から、資料8に基づき、本学の職員宿舎跡地について、今後の活用方針を定め、土地貸付に向けた手続きとして文部科学省へ認可申請を行った旨報告があった。

4 経営協議会委員からの意見への対応状況について

総長から資料9に基づき、令和7年に開催した本学経営協議会の中で、委員から出た意見に係る対応状況について、報告があった。

【 意見交換 】

1 研究力強化策について

「研究力強化策」をテーマに、資料10、11に基づき、瀬戸口理事から説明があった後、種々意見交換が行われた。

（主な意見）

- ・融合研究を推進するための設備上の位置づけとして、D-squareが非常に重要であるという点も、是非内容に入れていただきたい。
- ・どうすれば研究者が新たな知恵を出し、実現していけるかという仕掛けづくりが重要であり、例えばインセンティブのように報酬を許可することができれば

実現の早期化を見込めるのではないか。

- ・世界全体の流れとして、基礎研究の成果とビジネスの結びつく時間や距離が短くなっており、海外の企業は大学に積極的に投資を行っていることから、日本の大学も産学連携を強めなければ、研究開発力で海外に引き離されてしまうのではないかと懸念している。
- ・国では新しい教育プログラムとして、大学と企業が資金を出し合って新たな学科やコースを設置し、企業の研究者と大学の教員が共に、学生指導や共同研究を行う「契約学科」の創設を検討しているため、ぜひ関心を持っていただきたい。
- ・大企業では博士号を取得した人材を積極的に採用しようという動きが出ており、近年では博士の価値を見直し、以前より高い賃金を設定しようという動きもあるため、ぜひ北大としても博士人材を積極的に育てていただければ考える。
- ・博士人材の活躍のためには産学官それぞれに課題があり、産業界では、他の新規採用者よりも年齢が高い博士人材を育成するためのチーム作りがハードルとなっている。国の政策の面では、産業クラスターを育てていくためには博士の知の力が必要となる。こうした課題をオープンにしながら、産業界や経済界を含め社会全体の課題として議論を行っていく必要がある。
- ・将来の研究者を育てていくため、学部4年生の時から研究者の予備軍を作ること重要である。今、北海道大学がどのような研究をやっている、どのような方向を目指しているのかという情報を、場合によっては教養教育の段階から積極的に打ち出すことで、学部生の持つ北大のイメージが変わり、より目的志向のある大学院の受験者を確保でき、博士課程に入る学生も増えていくのではないか。
- ・博士課程はもはや学生ではなく研究者に近い位置づけであるため、研究者として何をしてきたかを、きちんと社会に認知されるような仕組みを作り出し、「博士」という肩書から受け取るイメージを向上させることが重要と考える。
- ・トップ10%論文の数値は国際卓越研究大学の基準を目標としているが、次期科学技術・イノベーション基本計画では世界3位を目指すという議論もされており、いずれは目標を上げていかなければならない状況が来ると考えられる。
- ・融合領域については、何が行われ、従来と違ってどのような付加価値のある研究成果があり、社会にどう役立っているのかを、分かりやすく一般の人にも示

すことができれば、一層その価値が理解されるのではないかと考える。

- ・ 今ある社会的課題への取り組みも重要だが、北海道のフィールドは人間とは全く違う時間軸で動いており、そこに根ざした研究は、将来の社会的価値を生み出す研究につながると考えるため、この分野の研究にも力を入れていただきたい。
- ・ 食糧自給率、持続可能性、人獣共通感染症、先住民研究といった北大が強みを持つ分野において、日本の他の大学にない独自性を発揮していただきたい。
- ・ 女性版アンビシャステニュアトラックの推進について、その重要性を明確にすることで関係者の理解を得て進めることができるため、是非成功させていただきたい。
- ・ 最近の中国や韓国では、海外で勉強した方が多く戻って研究をしており、日本の国内研究だけでは、それらの層に対抗することが難しくなっているため、海外から優秀な研究者を誘致することで、研究力を補う必要もあると感じる。

(以 上)